学校図書館活用推進事業

令和４年度　学校図書館活用推進校　実践報告

新潟市立高志中等教育学校
司書　行田　圭
教諭　渡邊　麻央人

１　高志中等教育学校の実態

（１）生徒の実態

全学年３学級ずつ、計 18 学級。

※1 学年 120 名、2 学年 119 名、3 学年 116 名、4 学年 105 名、5 学年 106 名、6 学年 97 名

蔵書数：30,056 冊（令和４年１月末現在） 貸出冊数： 5,352 冊（令和３年度）	※1 学年、2096 冊　2 学年、793 冊　3 学年、1360 冊 4 学年、454 冊　5 学年、502 冊　6 学年、147 冊

（２）図書館の機能

【読書センター】

・季節のボード、新刊紹介、特設コーナーの設置により、本に親しむことのできる機会を設定している。
・図書委員会による様々な企画を通して、生徒が読書に親しみをもてる環境づくりを進めている。
・今年度より時程変更があり、朝読書の時間が確保できなくなってしまったため、学校全体の読書量が減少傾向にある。

【学習センター】

・特に国語科を中心に、「話すこと、聞くこと」に関する授業の際に使用している。
・学校として SDG s に関する活動に力を入れているので、関連する書籍を揃え、生徒が興味関心をもてる環境を整えている。
・修学旅行に関連する書籍についても、学年部からの要望にこたえる形で揃えている。
・放課後は自習室としても開放しており、１～6 年生まで幅広く活用し、学習に励んでいる。

【情報センター】

・新潟日報、読売新聞、朝日新聞の３社の新聞を比較、検討できる新聞コーナーを設置している。
・大学入試対策として、小論文のテーマになりやすい書籍を紹介するコーナーを設置している。
・年４回の図書館便りの発行により、生徒に書籍に関する情報を積極的に発信している。
・Youtube にて図書館便りに掲載したリレー小説のラジオドラマを配信したり、学校行事の際に読書旬間に関する CM を作成したりするなどして情報発信をしている。

2　実際の取組

（1）図書委員会による読書推進活動

①季節のボード、新刊紹介、特設コーナーの設置

・図書館入り口に季節のボードを、館内に特設コーナーを設置した。そこには司書や図書委員が選んだ本を紹介する POP を掲示したり、テーマに沿った本を実際に展示したりすることで、来館した生徒が興味関心をもって本を手に取る姿が見られた。新刊紹介については、管理棟と教室棟とを結ぶ廊下に掲示することで、図書館に足を運ばずとも、生徒が新刊の情報を得られるようにしている。

②図書館便りに「リレー小説」を掲載

・年に 5 回図書館便りを発行し情報発信に努めているが、生徒の中から希望者を募り、複数人で一つの小説を完成させるリレー小説を毎号掲載している。小説は全 5 話で完結するものとして、1 年間で 1 つの物語を完成させる。小説が完成後すると、ランチルーム前の廊下に完成したリレー小説を掲示することで、ランチ後の生徒が足を止める姿が見られた。加えて、図書委員が小説を朗読したものを録音し、その音声をラジオドラマとして Youtube にアップする活動も行った。これにより、普段は図書館にあまり足を運ばない生徒も、完成した作品を楽しめる機会となった。

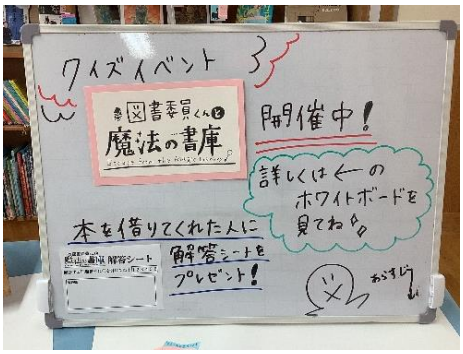
③本の福袋

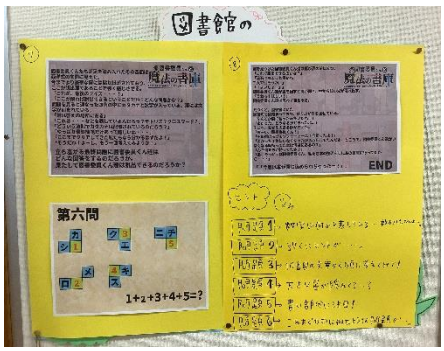
・読書旬間に合わせ、図書委員がテーマを決め、それにまつわる本をピックアップし、ラッピングした「本の福袋」の貸し出しを実施した。福袋の中には、先生方にお勧めの本を取材し、それをもとに作成したものもあり、多くの生徒が手に取っていた。本を借りる際は、自身の好きな作家や興味のあるジャンルの本を好んで借りる生徒が多いが、普段はなかなか手に取らない本と出合うことのできた生徒も多く、読書活動を充実させる上でもよい機会となり、生徒にも大変好評だった。

④文化芸術発表会における CM 作成とクイズイベントの実施

・高志中等教育学校では、10 月に「文化芸術発表会」が行われる。この行事では、クラスや部活動ごとに 15 分程度の映像作品を制作し、それらの作品を 3 本ずつパッケージ化した上でスクリーンに上映し、完成した作品を鑑賞し合う行事を行っている。その中で、動画と動画の合間に委員会や生徒会がそれぞれの活動を PR するための CM を放送できるので、文化芸術発表会の直後に開催される読書旬間の CM を作成、放映した。今年度は 2 種類の CM を作成したが、読書旬間で行う予定のクイズイベントについて紹介した。

・クイズイベントは「図書委員くんと魔法の書庫」と題し、高志中等教育学校図書館のキャラクターである「図書委員くん」が、閉じ込められてしまった書庫からの脱出を図るという設定で実施した。期間中に本を借りた生徒には、専用の解答用紙が配布され、図書館内に掲示されている問題に回答してもらう。正解すると、図書委員が作成した「図書委員くんが図書館を脱出するまでの物語」が読めるようになっている。問題は全部で 6 問あり、4 ～ 5 日で新たな問題が更新されていくので、期間中何度も図書館に足を運び、本を借りてクイズに正解することで、物語を読み進めることができるようにした。結果として、多くの生徒がこのイベントに参加し、企画を楽しみながら本に触れる機会を増やすことができた。





（2）情報センターとしての情報発信

①「進路コーナー」の設置と、小論文頻出テーマの書籍紹介

・中等教育学校であるため、当校の図書館は中学１年生から高校３年生までの幅広い年代の生徒が活用している。昼休みや放課後は、学習スペースとして活用する生徒も多く、大学受験を控えた生徒たちは共通テストや小論文試験に向けた学習に励んでいる。その特性を生かし、生徒の力になるためにも、図書館の一角に小論文頻出テーマの書籍を集め展示している。また、併設して学習法や大学、面接に関連する書籍を集めた「進路コーナー」を設置している。これにより、受験生だけでなく、中学生の早い段階から、自身の進路実現に向けた関連書籍を手に取りやすい環境を整えている。

②新聞の活用

・図書館隣のブラウジングルームに、「新潟日報」「読売新聞」「朝日新聞」の３社の新聞を展示し、生徒が自由に手に取って読むことのできるようにしている。生徒は読書の合間にそれぞれの新聞を手に取る様子が見られる。授業内でも活用されることもあり、国語科の授業において、記事の比べ読みをしたり、社会科の授業において新聞記事を活用したりするなど、教科とも連携しながら効果的に活用している。

３成果と課題

・貸出冊数を見てもわかるように、学年が進むにつれて次第に読書量が減少傾向にある。また、今年度より時程が 55 分授業へと変更され、時間の確保の都合上、朝読書の時間を設定することが難しくなってしまった。このような状況の中で、本に親しみをもってもらい、主体的に読書を楽しんでもらいたいという願いのもと、図書委員会を中心に様々な企画を立案し、実施してきた。今後も情報発信に努め、魅力のある図書館であり続けることで、１学年から６学年までの幅広い年代から活用してもらえる場となりたい。そのためにも、貸出冊数の少ない後期生が積極的に図書館へ足を運びたくなる環境づくりを心がけるとともに、学習や進路に関する書籍を充実させたり、後期生を対象としたイベントを開催したりしていくことが必要である。

・「中等教育学校」であるため、決まった中学校区がなく、生徒は様々な区から公共交通機関を用いて登校してきている。そのため、小中連携の動きを取ることが難しい。しかしながら、蔵書が小学校図書館よりも充実しており、進学したばかりの 1 学年の貸出冊数が最も多いという実態もある。近隣の山潟小学校や桜が丘小学校と連携し、中等教育学校の魅力に触れられるような取組を行えば、在校生からもより図書館に親しみをもってもらえるのではないかと考えている。